

ダイバーシティ社会推進、男女共同参画、ユニバーサルデザイン に関するアンケート実施報告書

「ダイバーシティ社会推進、男女共同参画、ユニバーサルデザインに関するアンケート」の実施結果を次のとおりご報告いたします。アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆様に厚くお礼を申し上げます。

アンケートの概要

1 アンケート実施期間

令和3年1月27日(水)～令和3年2月10日(水)

2 アンケート回収状況

対象者数 952名
回答者数 562名
回答率 59.0%

3 回答者属性

<年代別>

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
回答者数	2人	25人	110人	148人	126人	99人	52人
総数に占める割合	0.4%	4.4%	19.6%	26.3%	22.4%	17.6%	9.3%

<地域別>

地域	北勢地域	中南勢地域	伊勢志摩地域	伊賀地域	東紀州地域
回答者数	267人	164人	71人	50人	10人
総数に占める割合	47.5%	29.2%	12.6%	8.9%	1.8%

北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

中勢：津市、松阪市、多気町、明和町、大台町

伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町

伊賀：名張市、伊賀市

東紀州：尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

アンケートの結果

【Q1】「ダイバーシティ」について

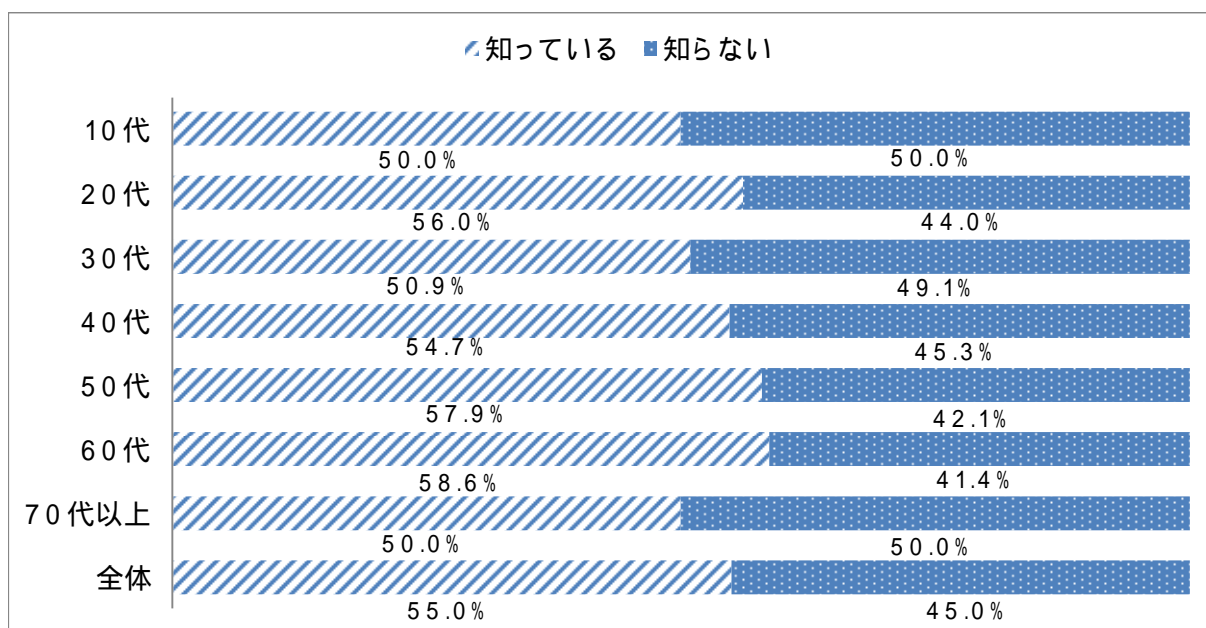
あなたは、以前から「ダイバーシティ」という言葉をご存じでしたか。「知らない」とお答えいただいた方は、Q3へお進みください。

「ダイバーシティ」という言葉を「知っている」と回答した方が55.0%（309人）となっています。

知っている	309人	55.0%
知らない	253人	45.0%

（回答者数： 562人）

すべての年代で、「ダイバーシティ」という言葉を「知っている」と回答した方が半数以上となっています。



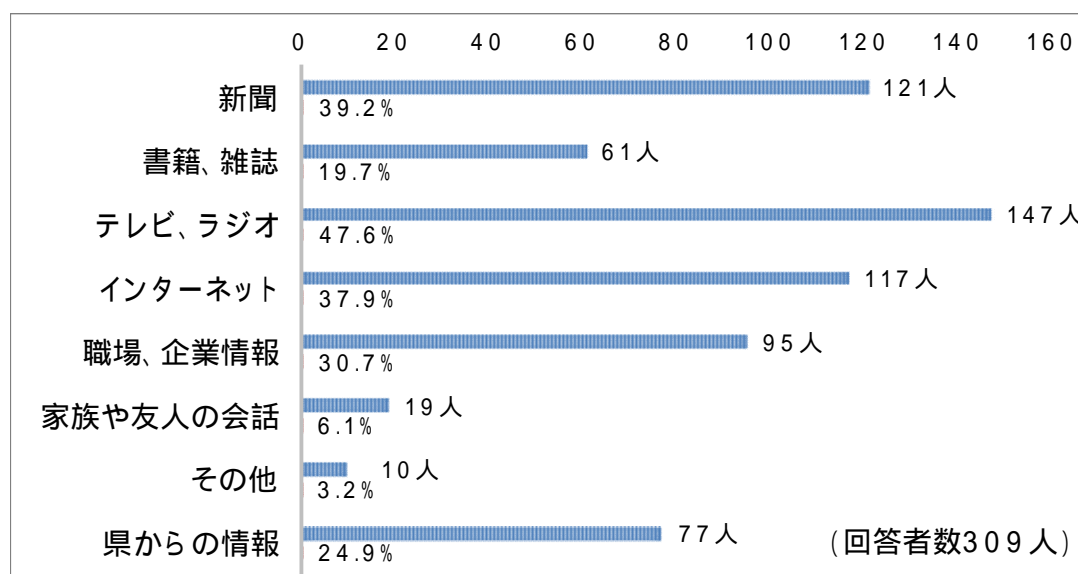
ダイバーシティという言葉については、年々認知度が高まっていますが、前年度からはほぼ横ばいで推移しています。

項目	R2	R1	H30	R2-H30
知っている	55.0%	55.4%	45.6%	9.4%
知らない	45.0%	44.6%	54.4%	9.4%

【Q2】「ダイバーシティ」について

Q1で、「知っている」を選んだ方にお聞きします。あなたは、「ダイバーシティ」という言葉をどこで（何で）知りましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

Q1で「知っている」と回答した方（309人）のうち、「ダイバーシティ」を知った媒体としては、「テレビ、ラジオ」と回答した方が47.6%（147人）と最も多く、次いで、「新聞」が39.2%（121人）、「インターネット」が37.9%（117人）などとなっています。また、「その他」の自由記載では、「学校」「セミナー」「英語で知っていた」などの回答がありました。



年代別の回答では、20～40代は「インターネット」、50代以上では「新聞」「テレビ、ラジオ」と回答した割合が高くなっています。

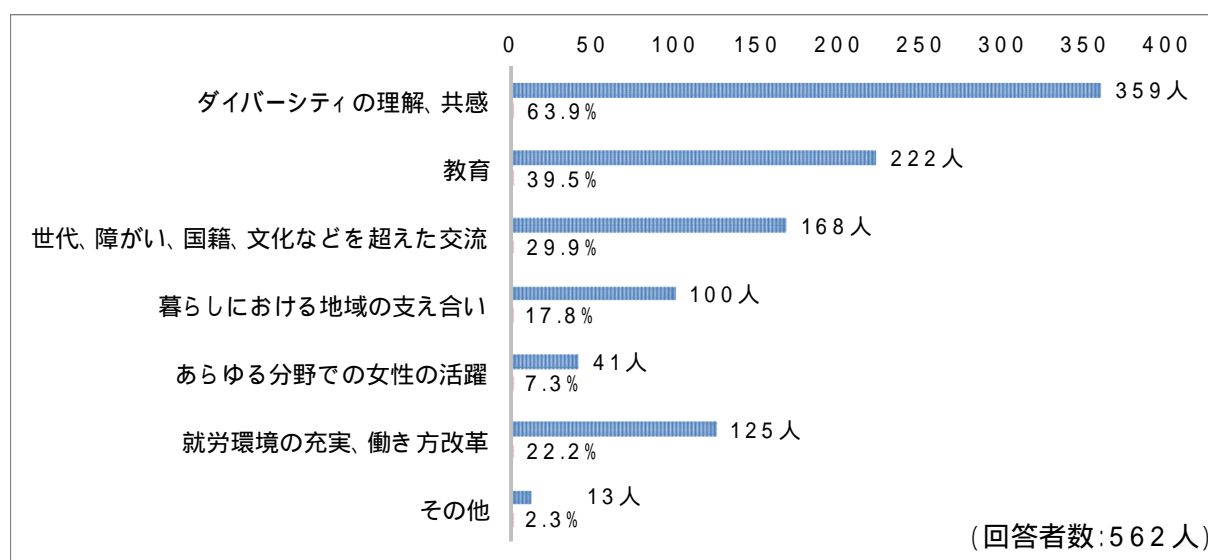
項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
新聞	25.0%	12.5%	10.0%	15.3%	22.0%	23.9%	25.0%
書籍、雑誌	0.0%	8.3%	10.0%	9.6%	8.7%	9.4%	10.9%
テレビ、ラジオ	25.0%	25.0%	21.8%	19.7%	24.0%	25.4%	21.9%
インターネット	0.0%	25.0%	21.8%	21.7%	15.3%	14.5%	15.6%
職場、企業情報	25.0%	16.7%	15.5%	16.6%	18.0%	12.3%	4.7%
家族や友人の会話	25.0%	0.0%	7.3%	3.2%	1.3%	1.4%	1.6%
その他	0.0%	8.3%	0.0%	0.6%	2.7%	0.7%	3.1%
県からの情報	0.0%	4.2%	13.6%	13.4%	8.0%	12.3%	17.2%

【Q3】ダイバーシティ社会の実現について

性別や年齢、障がいの有無、国籍等に関わらず、多様な人々が社会参画し、活躍できる社会「ダイバーシティ社会」の実現のために、さまざまな取組が必要であると考えます。これらの取組を県民の皆さんとともに進めるうえで、あなたは、県の取組として何を優先すべきであると思いますか。主なものを2つまで選んでください。

「ダイバーシティの理解、共感」と回答した方が63.9%（359人）と最も高く、次いで、「教育」が39.5%（222人）、「世代、障がい、国籍、文化などを超えた交流」が29.9%（168人）などとなっています。また、「その他」の自由記載では、以下のようなご回答をいただきましたので、その一部をご紹介します。

- ・「ダイバーシティ」という言葉を日本語に置き換える
- ・中小企業への周知
- ・大人の意識改革



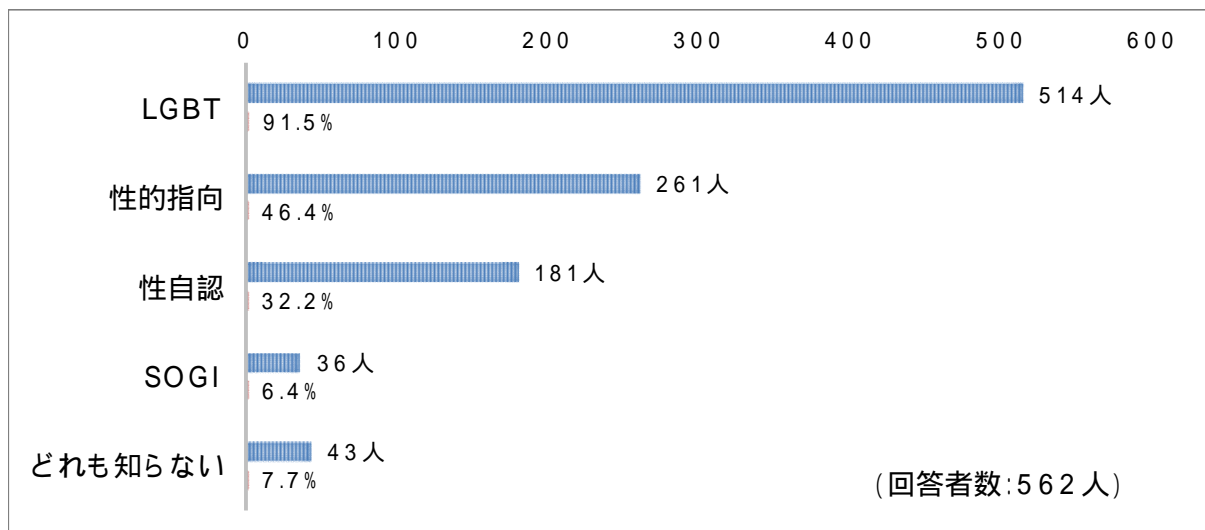
また、年代別の回答でも、全ての年代で「ダイバーシティの理解、共感」「教育」と回答した方の割合が高い傾向でした。

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
ダイバーシティの理解、共感	0.0%	56.0%	58.2%	63.5%	73.0%	62.6%	63.5%
教育	50.0%	44.0%	44.5%	39.9%	38.1%	34.3%	38.5%
世代、障がい、国籍、文化などを超えた交流	0.0%	24.0%	23.6%	33.1%	31.0%	33.3%	28.8%
暮らしにおける地域の支え合い	50.0%	28.0%	14.5%	13.5%	16.7%	19.2%	30.8%
あらゆる分野での女性の活躍	100%	8.0%	10.0%	4.1%	4.0%	10.1%	9.6%
就労環境の充実、働き方改革	0.0%	28.0%	28.2%	22.3%	19.8%	22.2%	13.5%
その他	0.0%	0.0%	1.8%	2.0%	3.2%	2.0%	3.8%

【Q4】性のあり方の多様性について

次の言葉のうち、言葉も内容も知っているものはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

「LGBT」という言葉を「知っている」と回答した人は91.5%（514人）と、多くの方が知っている一方、「性的指向」、「性自認」、「SOGI」という言葉は「LGBT」と比べると認知度が低い結果となりました。



年代別の回答でも、全ての年代で「LGBT」という言葉が知られていることがわかります。

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
LGBT	100%	88.0%	94.5%	93.2%	91.3%	88.9%	86.5%
性的指向	50.0%	48.0%	50.9%	50.7%	46.0%	42.4%	32.7%
性自認	50.0%	40.0%	41.8%	35.1%	30.2%	27.3%	13.5%
SOGI	0.0%	4.0%	11.8%	8.1%	2.4%	7.1%	0.0%
どれも知らない	0.0%	12.0%	4.5%	6.1%	7.1%	10.1%	13.5%

【Q5】性のあり方の多様性について

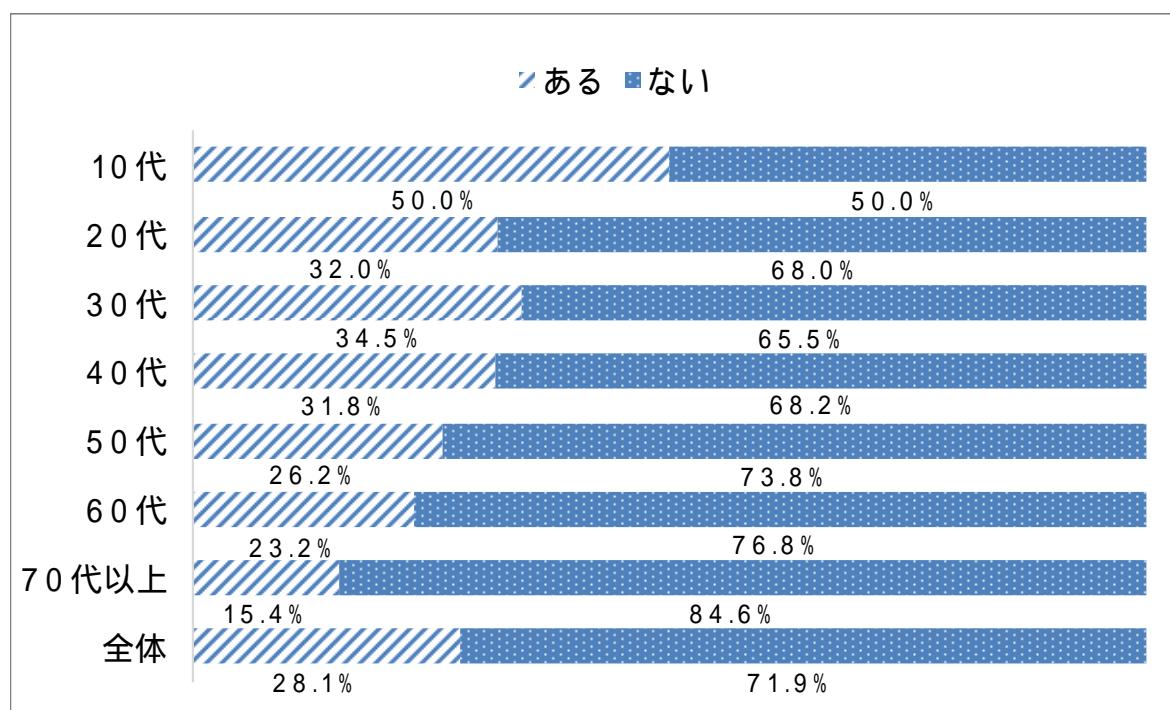
あなたは、多様な性的指向・性自認やLGBTなどについて、これまで学んだことはありますか。

「学んだことがある」と回答した方が28.1%（158人）となっています。

学んだことがある	158人	28.1%
学んだことはない	404人	71.9%

（回答者数：562人）

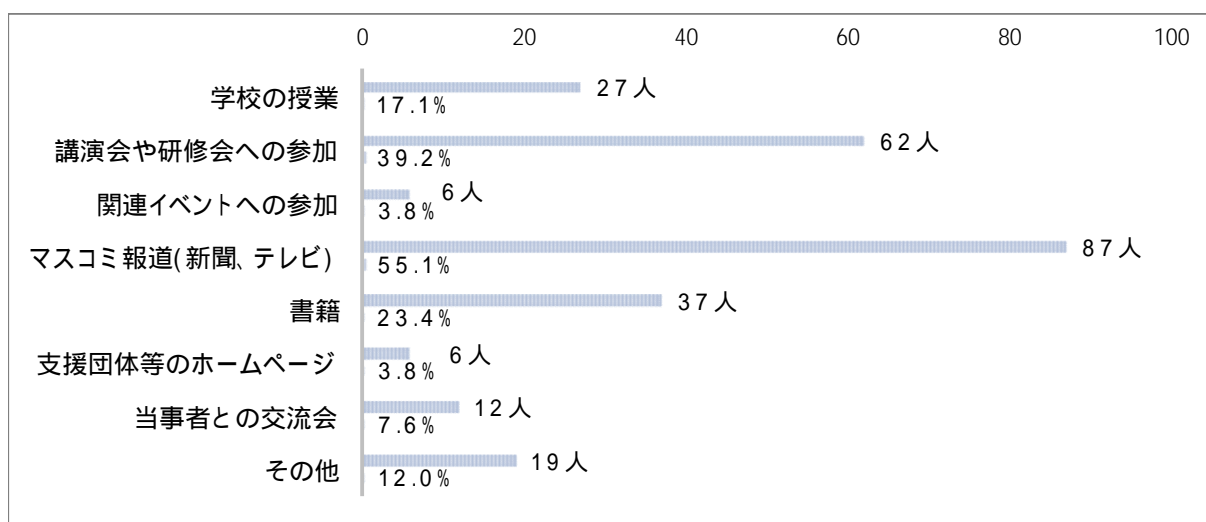
回答した方の割合を年代別に見ると、年代が上がるにつれて「学んだことがある」と回答した方の割合が低くなる傾向が窺えます。



【Q6】性のあり方の多様性について

Q5で「ある」を選んだ方にお聞きします。あなたは、これまでにどのような場で学んだことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

Q5で「学んだことがある」と回答した方（158人）のうち、「マスコミ報道（新聞、テレビ）」と回答した方が55.1%（87人）と最も多く、次いで、「講演会や研修会への参加」が39.2%（62人）、「書籍」が23.4%（37人）などとなっています。また、「その他」の自由記載では、「職場の研修」、「SNS」、「映画、ドラマ」などの回答がありました。



年代別の回答では、10代から30代では「学校の授業」の回答した割合が高くなっています。また、40代以上では「マスコミ報道（新聞、テレビ）」、「講演会や研修会への参加」の割合が高くなっています。

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
学校の授業	100%	50.0%	42.1%	6.4%	6.1%	0.0%	12.5%
講演会や研修会への参加	100%	25.0%	21.1%	44.7%	42.4%	52.2%	50.0%
関連イベントへの参加	0%	0.0%	0.0%	6.4%	6.1%	4.3%	0.0%
マスコミ報道(新聞、テレビ)	100%	25.0%	57.9%	53.2%	57.6%	60.9%	50.0%
書籍	0%	25.0%	28.9%	27.7%	18.2%	13.0%	25.0%
支援団体等のホームページ	0%	0.0%	2.6%	6.4%	0.0%	8.7%	0.0%
当事者との交流会	0%	12.5%	10.5%	2.1%	6.1%	13.0%	12.5%
その他	0%	12.5%	13.2%	8.5%	21.2%	4.3%	12.5%

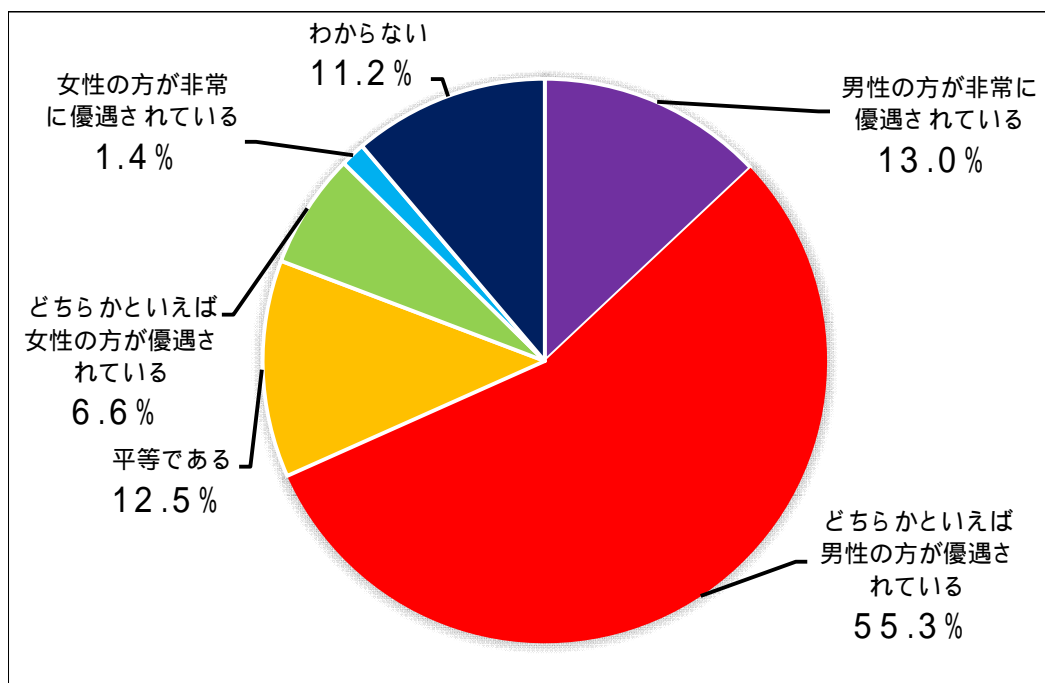
【Q7】性別について

男女の性別によるアンケート結果の分析のため、あなたの性別（自認する性）をお答えください。なお、選択肢がない場合は回答不要です。

男性...51.4% 女性...48.6%

【Q8】男女平等について（社会全体）

あなたは、社会全体で、男女の地位が平等になっていると思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。



「平等である」の割合は12.5%であり、昨年の13.3%より0.8ポイント減少、一昨年の16.5%より4.0ポイント減少しました。

性別による優遇感については、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は68.3%で、昨年の67.3%より1.0ポイント、一昨年の62.7%より5.6ポイント増加しており、平等感が減少するとともに、男性の優遇感が増加していることが窺えます。

項目	R2年度		R1年度		H30年度		R2 - H30
男性の方が非常に優遇されている	13.0%	68.3%	11.5%	67.3%	8.0%	62.7%	5.6
どちらかといえば男性の方が優遇されている	55.3%		55.8%		54.7%		
平等である	12.5%		13.3%		16.5%		4.0
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.6%	8.0%	7.9%	10.0%	8.1%	9.8%	1.8
女性の方が非常に優遇されている	1.4%		2.1%		1.7%		
わからない	11.2%		9.2%		11.0%		0.2

男女別に比較すると、「平等である」の割合は、男性が17.5%に対して女性が7.4%と約10ポイントの差があり、女性に比べて男性の方が平等感が高い傾向にあります。

また、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、男性が64.0%に対して女性が72.2%と約8ポイントの差がありますが、その差は年々小さくなっています。

<男女別>

項目	男性				女性			
	R2	R1	H30	R2-H30	R2	R1	H30	R2-H30
男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている	64.0%	60.3%	53.9%	10.1	72.2%	75.0%	72.2%	0.0
平等である	17.5%	16.2%	21.5%	4.0	7.4%	10.1%	10.9%	3.5
どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	9.1%	14.0%	15.9%	6.8	7.0%	5.9%	3.3%	3.7
わからない	9.4%	9.5%	8.7%	0.7	13.3%	9.0%	13.6%	0.3

年代別に比較すると、「平等である」の割合は、年代により差異はあるものの、はっきりとした傾向は見られません。

また、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られます。

<年代別>

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている	50.0%	52.0%	59.1%	61.5%	76.2%	74.7%	84.6%
平等である	0.0%	8.0%	19.1%	10.8%	8.7%	14.1%	11.5%
どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	50.0%	20.0%	8.2%	12.9%	4.8%	3.0%	3.8%
わからない	0.0%	20.0%	13.6%	14.9%	11.1%	8.1%	0.0%

【Q9】男女平等について（理由）

Q8で「平等である」以外を選んだ方にお尋ねします。なぜそのように思いますか。

「平等である」以外を選択された方に対し、優遇されていると考える理由をたずねたところ、次のようなご意見がありました。（一部のみ）

（「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）

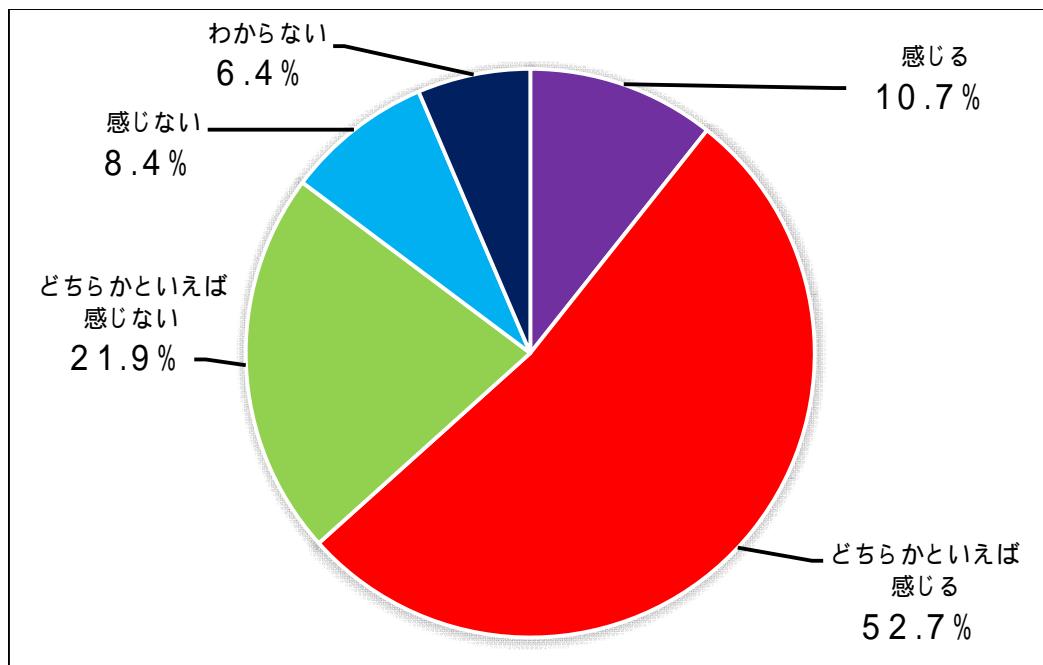
- ・会社及び組織の役職者に男性が多く女性役職者が未だに少ないから。
- ・女性にトイレ掃除やお茶出しなどをさせ、男性にはさせない企業もあるから。
- ・職場では男性思考の社会が根付いており、その中で女性が活躍するにはある程度男性のやり方に合わせないと認めてもらえない傾向があるように感じる。
- ・現実的に就業できる職種の選択肢が男性の方が多い。
- ・男性は育休がとりにくい。制度はあるが、とるのは良くないという風潮がみられる。
- ・国政、地方自治体の女性議員の数が少ない。
- ・家事育児は女性がするものという、男性からの見えないし、言わないけど、未だにそのような風潮がある。
- ・家庭内での家事、育児、介護等の負担が女性に多い。

（「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）

- ・女性専用や女性優待の制度がある。
- ・女性の方が楽な仕事をさせてもらえる。
- ・産休、育休など特別な休暇の取りやすさが女性の方が優遇されていると思うから。
- ・男性は体調不良を訴えることが難しい。
- ・女性はパート勤務でもいいけど、男性は正社員でなければならないと思われるような気がするから。

【Q10】女性の社会参画について

あなたは、あらゆる分野で女性の社会参画が進んでいると感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。



「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた割合は63.4%で、「感じない」「どちらかといえば感じない」を合わせた割合の30.3%を大きく上回っています。

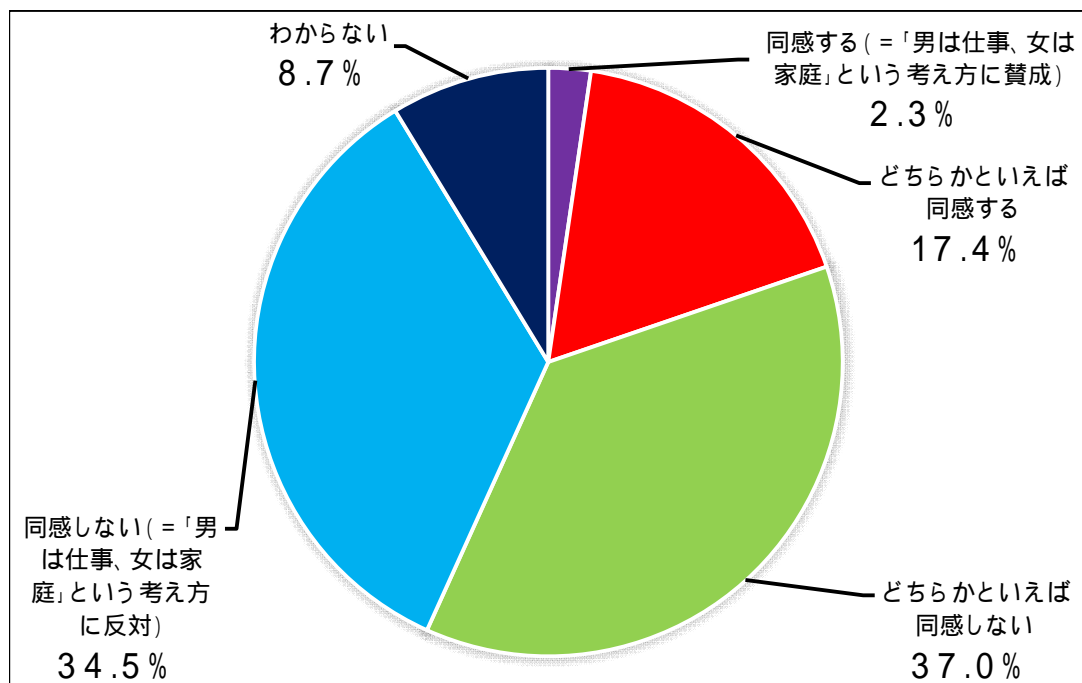
男女別に比較すると、「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた割合は、男性が70.6%に対して女性が55.5%と約15ポイントの差があります。

<男女別>

項目	男性	女性
感じる	70.6%	55.5%
どちらかといえば感じる		
どちらかといえば感じない	26.2%	34.4%
感じない		
わからない	3.1%	10.0%

【Q11】「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「男は仕事、女は家庭」のように性別によって役割を固定する考え方について、あなたは
どう思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。



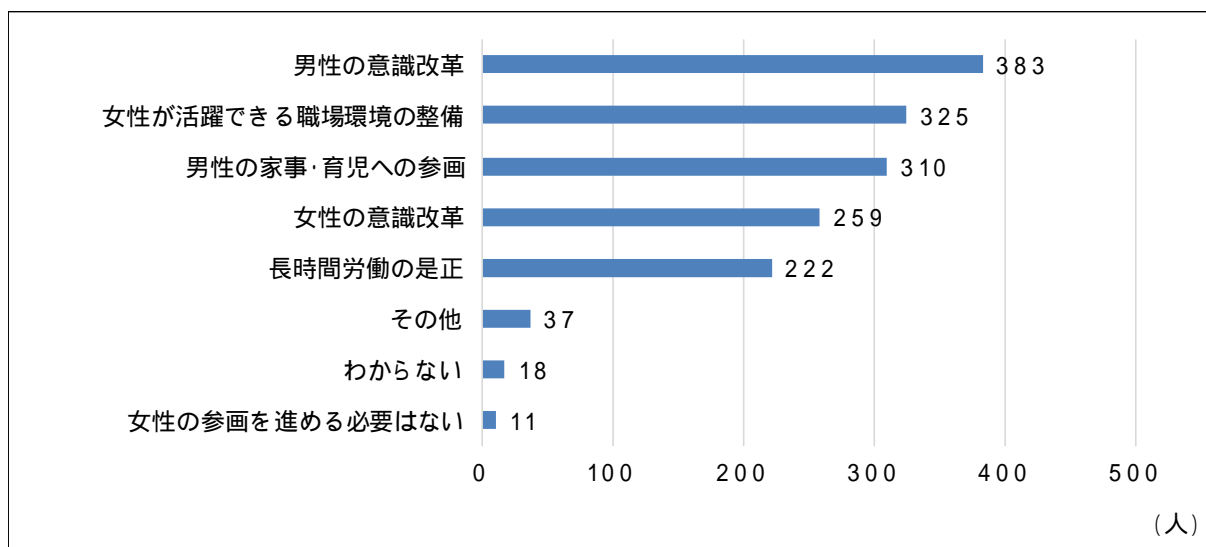
「同意しない(=「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対)」「どちらかといえば同意しない」を合わせた割合は71.5%で、昨年の70.7%より0.8ポイント増加、一昨年の63.7%より7.8ポイント増加しました。

また、「同意する(=「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成)」「どちらかといえば同意する」を合わせた割合は19.7%で、昨年の23.7%より4.0ポイント減少、一昨年の29.4%より9.7ポイント減少し、固定的役割分担意識が徐々に改善されてきていることが窺えます。

項目	R2	R1	H30	R2-H30
同意する(=「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成) どちらかといえば同意する	19.7%	23.7%	29.4%	9.7%
どちらかといえば同意しない 同意しない(=「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対)	71.5%	70.7%	63.7%	7.8%

【Q12】男女共同参画の推進について

あなたは、今後、男女共同参画を推進していくために、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

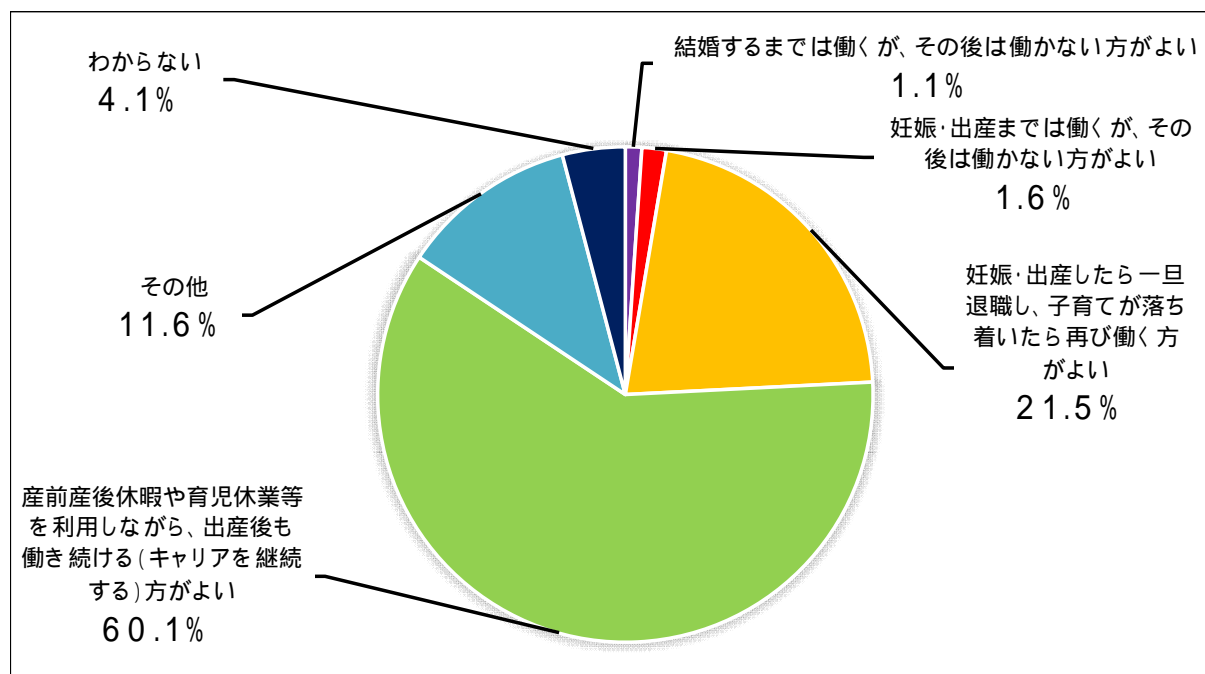


今後、男女共同参画を推進していくために必要なことについては、「男性の意識改革（383人）」、「女性が活躍できる職場環境の整備（325人）」、「男性の家事・育児への参画（310人）」が上位を占め、昨年同様、男性側の対応を求める声が多く聞かれました。

また、「その他」を選択された方からは、「社会、会社の意識改革」「女性も男性も休みやすい環境をつくる」「就業時間の短縮、働き方を適宜選択できるようにする」などのご意見をいただきました。

【Q13】女性の働き方について（考え方）

あなたは、女性が結婚・出産した場合の働き方についてどのようにお考えですか。あてはまるものを1つ選んでください。



昨年同様、「産前産後休暇や育児休業等を利用しながら、出産後も働き続ける（キャリアを継続する）方がよい」という「継続型」の回答割合が最も高く、60.1%を占めました。

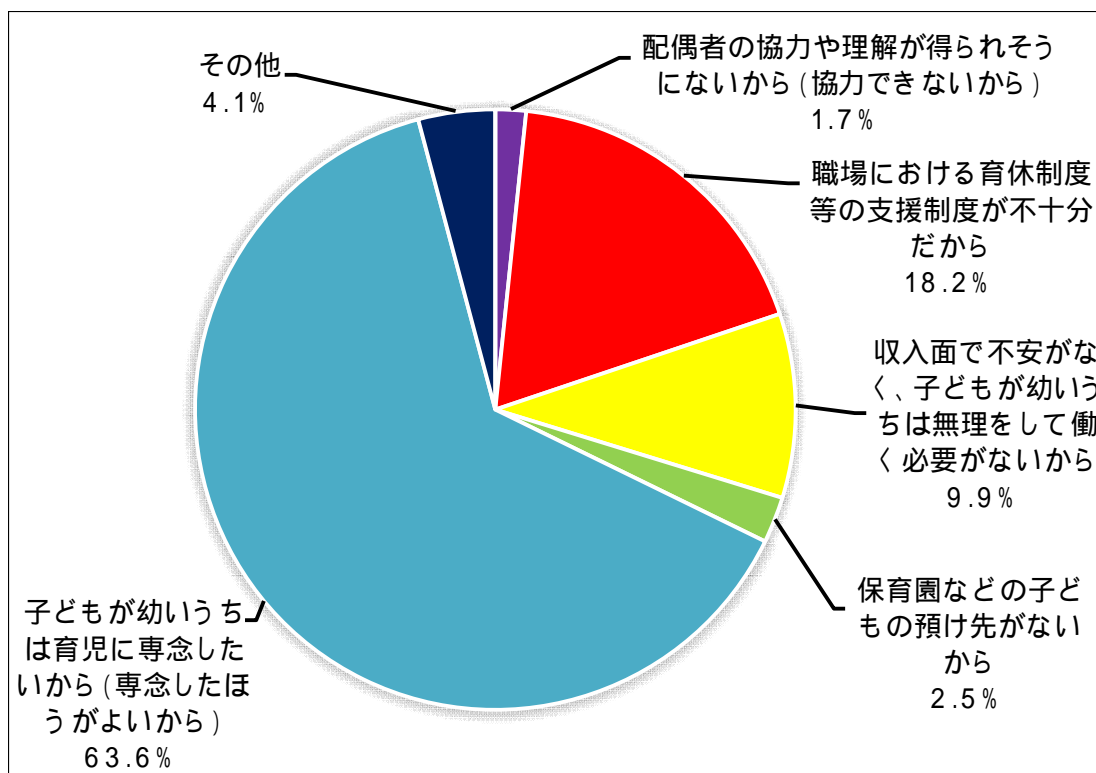
一方、「妊娠・出産したら一旦退職し、子育てが落ち着いたら再び働く方がよい」という「中断型」の回答割合は21.5%と、昨年の22.4%から0.9ポイント減少、一昨年の26.8%から5.3ポイント減少しました。

また、「その他」を選択された方からは、「結婚・出産に関わらず本人の希望する働き方ができるとよい」といったご意見をいただきました。

項目	R2	R1	H30	R2-H30
結婚するまでは働くが、その後は働かない方がよい	1.1%	0.8%	0.7%	0.4%
妊娠・出産までは働くが、その後は働かない方がよい	1.6%	1.8%	1.1%	0.5%
妊娠・出産したら一旦退職し、子育てが落ち着いたら再び働く方がよい	21.5%	22.4%	26.8%	5.3%
産前産後休暇や育児休業等を利用しながら、出産後も働き続ける（キャリアを継続する）方がよい	60.1%	59.3%	59.3%	0.8%
その他	11.6%	11.7%	8.3%	3.3%
わからない	4.1%	4.0%	3.8%	0.3%

【Q14】女性の働き方について（理由）

Q13 で「妊娠・出産したら一旦退職し、子育てが落ち着いたら再び働く方がよい」を選んだ方にお聞きします。あなたは、なぜそのように考えますか。もっともあてはまるものを1つ選んでください。

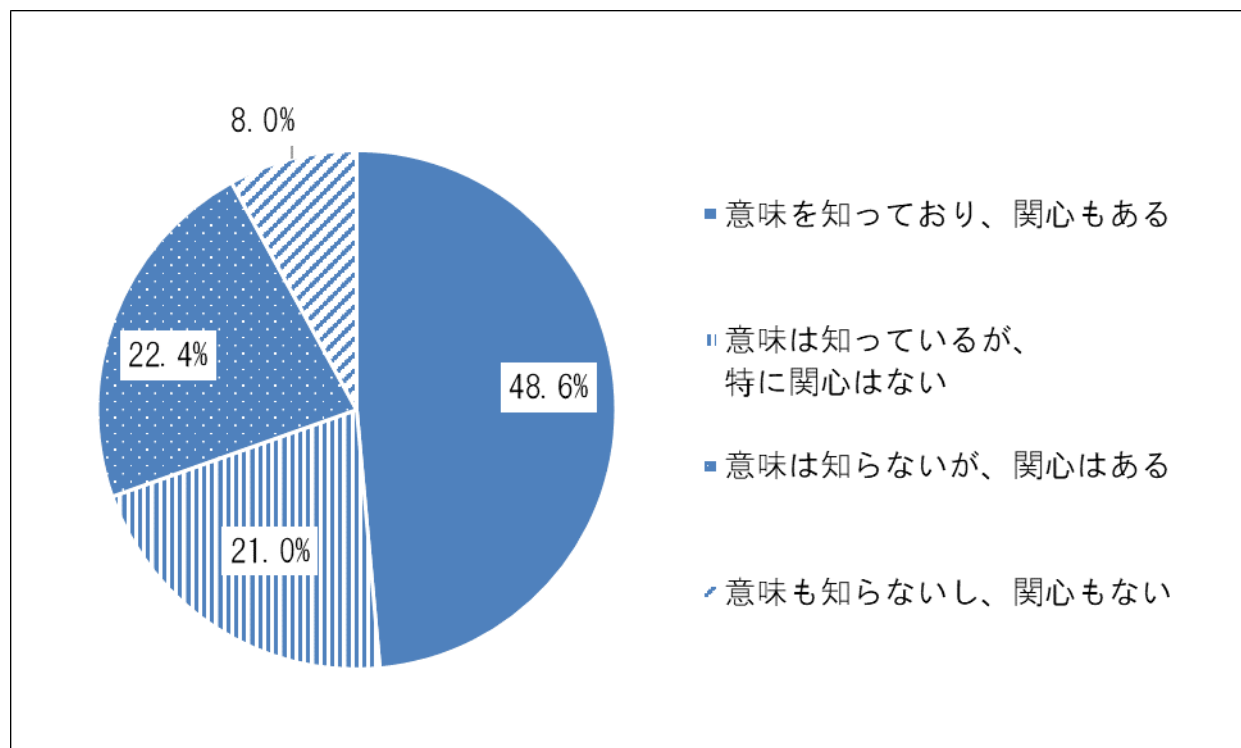


昨年に続き、「子どもが幼いうちは育児に専念したいから（専念したほうがよいから）」の割合が63.6%と最も高く、「職場における育休制度等の支援制度が不十分だから」の割合が18.2%と次に高くなっています。

項目	R2	R1	H30	R2-H30
配偶者の協力や理解が得られそうにないから（協力できないから）	1.7%	2.9%	1.6%	0.1%
職場における育休制度等の支援制度が不十分だから	18.2%	22.1%	19.7%	1.5%
収入面で不安がなく、子どもが幼いうちは無理をして働く必要がないから	9.9%	11.8%	6.9%	3.0%
保育園などの子どもの預け先がないから	2.5%	2.2%	1.1%	1.4%
子どもが幼いうちは育児に専念したいから（専念したほうがよいから）	63.6%	53.7%	63.8%	0.2%
結婚や出産を機に退職する慣行があるから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	4.1%	7.4%	6.4%	2.3%
わからない	0.0%	0.0%	0.5%	0.5%

【Q15】「ユニバーサルデザイン」の意味及び関心について

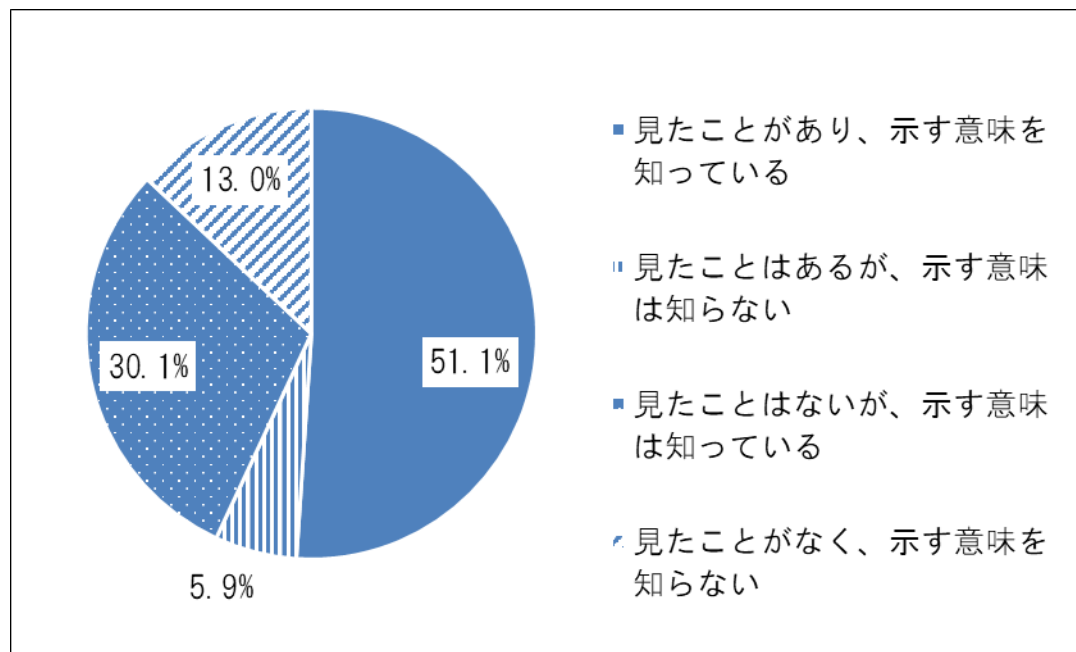
「ユニバーサルデザイン」とは、障がいの有無や年齢、性別等に関わらず、最初からできるだけ多くの人々が利用可能であるように施設、製品、制度等をデザインすることを言います。あなたは、「ユニバーサルデザイン」の意味を知っていましたか。また、関心はありますか。



ユニバーサルデザインの意味について 69.6%の方が知っていると回答しています。ユニバーサルデザインに関心のある方は、71.0%となっています。

【Q16】「ヘルプマーク」の認知度について

「ヘルプマーク」は義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークです。あなたは、「ヘルプマーク」を見たことがあり、その意味をご存じですか。



「ヘルプマーク」について、「見たことがあり、示す意味を知っている」「見たことはあるが、示す意味は知らない」を合わせて57.0%の方が見たことがあると回答しています。

また、「見たことがあり、示す意味を知っている」「見たことはないが、示す意味は知っている」を合わせて81.2%の方が示す意味は知っていると回答しています。